

和歌山県名匠表彰受賞者

敬称略（五十音順）

和歌山県名匠

いわもと まさ ゆき
岩本正幸

（経歴及び業績）

祖父の代より川船づくりを家業としており、こどもの頃から造船所の手伝いをしてきたが、本格的には23才からプロペラ船の発明者として知られる父に習い、以来40年川船の研究と製作に取り組んできた。

かつて新宮川筋の交通の手段は船であり需要も多く、氏の造船所だけでも年間30艘もの製造をしていた時期もあったが、昭和35年頃から新宮川筋の道路の整備等により貨客輸送も陸送に転じ、川船の需要が少なくなり、湍峡観光用プロペラ船を残すだけとなった。

昭和39年、それまで新宮川水運に利用されてきたプロペラ船のスピードアップと騒音の解消に取り組み研究を重ねた結果、ウォータージェット船を開発し、湍峡観光に大きな功績を挙げた。

川船製作にあたっての課題は浅瀬を遡流する時の船の安定性とスピードアップといわれ、船底の幅、両外板の角度ならびに荷の重量の関係によって決まるというが、この3つのバランスが非常に難しく、今なお研究を続けている。

昭和58年、長年の造船の経験を生かして、新宮熊野速玉大社の例大祭「御船まつり」に使用されてきた重要文化財「神幸船」が老朽化したため、300年ぶりに代船を完成させた。

また最近、かつて熊野（新宮）川の風物詩であった三反帆をモデルにして、観光用川船の製作に励んでいる。



職 種 川船設計製作

